

2月月例勉強会
「災害拠点病院の洪水対策～倉敷中央病院」質疑応答一覧

質問	回答
<ul style="list-style-type: none"> ・災害レベルをL1と想定したとのことであるが、想定外という言葉があるよう、L1を超えることもあると思われる。その対応はどのように計画しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・L1+50cmによって、150年に一度が、250年に一度にレベルアップしている。 ・病院自体のリニューアルは継続していく、60年程度経過すると、病院全体がリフレッシュしている想定であり、建て替え毎に抜本的な洪水対策を行えばさらに洪水に強い病院となる。
<ul style="list-style-type: none"> ・止水ゲートを設置するタイミングは何を目安とするのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高梁川の水位と警報発令の様子を見ながら、そのレベルに応じて早めに対応を確認する。
<ul style="list-style-type: none"> ・組み立て式止水ゲートを設置するための人手の確保はどうするのか。医療職員も加わるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設環境部（常時2名以上）と保安課（常時6名以上）の職員がコアメンバーとして担当することを基本とし、業種関係なく集まっていただく。 ・高梁川が氾濫してから、水が到達するまで2時間かかるので余裕がある。 ・作業自体はそれほど難しい操作ではないので、コアメンバーがいれば、集まってくれた職員で完遂できるはずである。 ・操作チェックリストを用意し、常に確認作業を行うようにする。
<ul style="list-style-type: none"> ・手動式止水板（ゲート）ではなく浮力式等自動化止水板は検討したか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の施設で自動化されているものは視察した。 ・当院の場合は、日常的に開閉する必要がないのでコストがかかる自動ゲートは必要ないと判断した。 ・浮力式は、組立式止水板に比べると漏水が多いので不採用とした。
<ul style="list-style-type: none"> ・集合排水槽の容量はどの程度確保しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・雨水等の排水は排水槽に貯留するが、逐次敷地外へ排出する計画であり、大きな容量は見えない。
<ul style="list-style-type: none"> ・排水路・用水路などによる内水氾濫についての対策はどう考えるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・常に敷地外へ排出する予定である。数か所で排水する。 ・敷地内の降雨は過去50年に発生した最大規模降雨に見合う排水設備で敷地外に排水する。
<ul style="list-style-type: none"> ・防水ゲートを閉鎖した後の救急患者搬送はどのように想定しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺道路は救急車の走行ができないので患者搬送はないものと考えている。ボート等で搬送されることはあるかもしれない。基本的には止水ゲートが閉鎖中は救急患者の受入れはない。
<ul style="list-style-type: none"> ・洪水対策にかかるコストの上限をどのように定めたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・L1+50cmの仕様を決定した後に、積算と見積を取ったところ、当初30億円程度で実施できる見通しであったが、検討の結果15億円で実施可能となり工事を開始する決断ができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・計画のために招集した洪水対策検討会のメンバーはどのように構成したか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本は人脈による ・洪水による災害等を研究・発表している研究者などをピックアップして打診した。 ・洪水対策を考えるうえで建築や土木工学にかかわる研究者にも声をかけた。 ・関連学協会のメンバーに依頼した。